

筑豊

筑豊総局

chikuho@nishinippon-np.jp
0948 (22) 3500
FAX 0948 (22) 3503

飯塚市徳前	22-1757
飯塚市西菰田	22-2768
新飯塚	23-0707
二瀬	25-2473
庄内	82-1399
天道	22-6575
上穂波	72-1755
嘉麻市山田	52-0449
稲築	42-6844
確井	62-4114
大隈	57-0112
川町	62-4114
西東	22-0294
町	22-1437
宮田	42-4045
宮若	32-2170
宮若	52-0513
伊田	6-8980
伊田	42-6990
伊田	44-2988
伊田	47-8801
藤寺	42-1839
町	82-0255
町	22-5023
町	42-1839
町	26-1670
町	82-0255
町	82-0255
町	42-6990
村	62-2093

「PLS」北九州の落水さん 難病抱え就労支援 飯塚で22日講演会

進行すると寝たきりになる、100万人に1人の難病「原発性側索硬化症」(PLS)を患い、闘病しながら障害者の就労支援を目指す北九州市の落水洋介さん(38)が22日午後2時から、飯塚市飯塚のコミュニティセンターで講演する。主催する穂波まちづくり協議会

は「コロナ禍でこれまでの生活や価値観が揺らいでいる中、諦めずに夢を持ち続ける意義や、誰もが住みやすい社会について考えるきっかけになればうれしい」としている。

落水さんは30歳のころ、突然うまく歩けなくなり、その後、PLSと診断され

た。運動神経の障害により、足や手や口が動かなくなっていく病気で、数年後には寝たきりになる。治療法は見つからないという。障害者になったことで「障害者は働ける場所が限られ、収入も少ない」と気づいた。現状を打破するため、クラウドファンディング(CF)で資金を募り、水耕栽培によるニンニクの生産販売に取り組んでいる。

講演会では「難病がくれた宝物、僕は今が一番幸せです」と題して、発症した時の気持ちや、障害者の働き口を増やすための今後の展望などを語る。

無料。ビデオ会議アプリ「Zoom(ズーム)」で視聴もできる。会場、ズームともに定員100人で先着順。申し込み、問い合わせは同協議会 0948(24)7458。

(中川次郎)

災害時 福祉避難所を開設

小竹町が4法人と協定締結

災害時、高齢者や障害者、乳幼児ら一般の避難所では生活に支障を来す恐れがあり、特に配慮が必要な人を受け入れる「福祉避難所」開設のための協定を、小竹町が町内の4社会福祉法人と締結した。町は、社会福祉法人が運営する施設が受け入れる避難者数を調整し、災害発生時に備える。

10日までに町と協定を締結したのは久住会、小竹福祉会、小竹御徳会、町社会福祉協議会。それぞれ高齢者施設や障害者施設、町総合福祉センターを町内で運営している。

町は8月、福祉避難所の開設・運営マニュアルを策定。その中で福祉避難所の受け入れ対象を「町の避難

行動要支援者台帳に登録された人のうち、身体などの状況が福祉施設や病院への入所入院に至らない程度で、一般の避難所での生活では特別な配慮を必要とする人」と定義した。現在、該当する人の特定も進めている。災害時、受け入れ対象となっている人が一般の避難所を経由せず直接、福祉避難所に行けるように準備する。

今月10日は4法人の代表者と松尾勝徳町長らが町役場集まり、意見交換した。松尾町長は「皆さまの協力にお礼を言いたい。町民の生命財産を守るために備える」と述べた。(坂本公司)

桂川の小学校などに税金の学習本を贈る

飯塚法人会

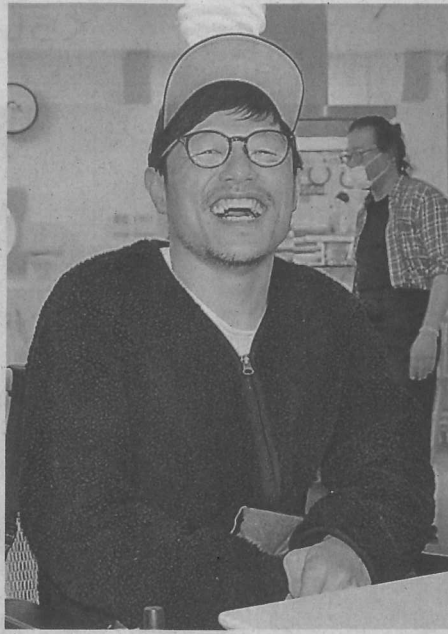
飯塚法人会(加藤完治会長)は4日、税金の役割や用途をテーマにした学習本8冊を桂川町教育委員会に寄贈した。

同会では毎年、飯塚税務署管内である同町や飯塚市、嘉麻市の小学校を対象に、高学年向けに税金についての出張講座を開いている。今年にはコロナ禍で外部講師として教室に入るの難しいことから、小学校6年生の各教室と小学校図書

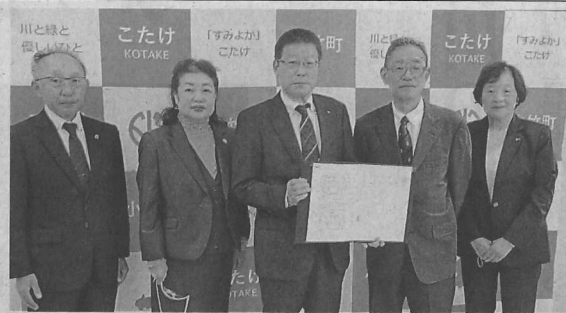
館、公立図書館向寄贈することとし、同会は「子どもに取ってもらい、役立ててもらえれば、町教委の大きな役割を学ぶが、理解していた。ありがたいことだ」としている。

同会は、飯塚市にも同じ書籍を計

会計検査院が10月14、17日、飯塚市が過去5年分の決算検査報告を計5072万円、大庭公正教育長(右)に本を手渡す加藤完治会長



飯塚市で22日に講演する落水洋介さん



福祉避難所設置のための協定を締結した小竹町の松尾勝徳町長(中央)と4法人の代表者



防府競輪 決勝

市高鈴ノ渡果て